

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1020700645		
法人名	有限会社グループホームなごみ(和)		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町902-3		
自己評価作成日	令和7年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和7年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごせるような環境作りに努めている。(例)屋外に自由に休憩したり、散歩するスペースがある。・転倒時に怪我を軽減する為に全フロア、居室にクッション入りの床材が張られている。・個別性を重視し、ドライブや買い物、医療機関への受診、近隣の催し物に参加する等のサービスを行っている。・非常勤に正看護師がいる。・家族から要望があればターミナルケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族に生活を伝える方法として、毎月職員手書きの「お便り」を発行しており、家族には好評である。長年継続されて、職員がそれぞれ3名を受け持ち、「お便り」を書くことで観察力が養われ、本人の現在の状況を家族も把握することができ、共有に繋がっている。また、居室から玄関、庭まで自由に出入りすることができる。庭には季節の花や植栽、東屋や所どころにベンチ・椅子が置かれている。「帰りたい」希望のある人や外に不意に出た人が腰かけられるようになっており、事務所からも門扉周辺を見渡することができるので、無理のない自然な形で安全を確保している。庭の環境整備は毎回新たな進化と維持がされており、利用者にとってはコロナ禍で外出できない状況でも四季を感じ、風にあたり、近隣の状況の確認ができる社会とのつながりの場になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自ホームの運営理念を掲示し毎朝申し送りの時、出勤者全員で合唱している	職員の入れ替わりや技能実習生も入職した。日々の支援では個別性を活かしたケアとして、ゆっくり利用者のペースに対応できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		運営者が近くに住んでいるので、地域情報は得られている。8月に行われた地域のお祭りに参加した利用者もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		対面で定期的に行われている。行政・地域包括・地域・施設関係者が出席し、メンバー・家族には開催日程を連絡している。事業内容や利用者の近況・現状報告、研修報告等がされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に情報交換を行っている	介護保険の代行申請と認定調査の立合いを家族の希望で行っている。地域包括支援センターと連携し紹介を受ける場合もある。社会福祉課とも連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠と身体拘束は行っていない。事業所を囲む門は施錠している。	門扉まで出られる設えとなっている。スピーチロックでは職員同士注意しあえる関係性がある。帰宅願望のある方には一緒に外に出て気が済むまで庭にいてもらう。身体拘束等の適正化の研修を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		家族に手書きの「お便り」を職員が作成し、家族とのコミュニケーションツールとなっている。日々の連絡はメールで連携している。面会制限時は頻回に連絡を取っていた。本人からは食べたい物や帰りたいという思い等聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時全体会議を行い、意見交換を行っている。	職員全員が集合するのは難しいので、朝・昼の申し送り時に現況を共有している。職員の働き方については要望を聞くようにしている。支援方法について、職員の意見には「まずは試してみる」ことを共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を算定、休日希望の調整		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、研修に参加するように、勤務調整を行っている。随時介護技術などの指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと情報交換を適時行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり協力していただきたいところは協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出はいつでも可能にしている	家族から面会や外出、外食の要望があり、実践されている。日常的に日向ぼっこ、色塗り、体操や毛糸を買って編み物をする人、お習字を楽しむ人もいる。家事を手伝ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時、テーブルの座る位置を会話が弾むように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から介護サービスのことの相談支援を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声掛けを行い本人の要望や思いなどの把握を行っている。	相談員がケアマネジャーを兼務しており、日常の会話を通して意向等確認している。家族からは、面会時や電話等で希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話などで意見や要望などの確認を行っている。	ケアマネジャーが3ヵ月毎にモニタリングを実施。介護計画については、6ヵ月毎にアセスメントと共に見直しを行い、担当者会議で共有している。また、状態変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、様子をノートに記録しいつでも閲覧出来る様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医か、当事業所のかかりつけ医かどちらでも選択できる体制をとっている	入居時に説明し家族の選択で協力医を決められる。協力医を希望した場合は月に2回の往診が受けられる。入居前の主治医を継続する場合の受診は家族支援である。協力医に変える家族が多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の連絡ノートを使い、介護職は利用者の変化があればノートに記載し、看護師が確認し対応を記載するなど、看護職との連携がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、病院関係者との情報交換や話し合いなどを行う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の希望を確認している。入所中に意向が変わることもあるためその後も適時意向の確認を行っている。	お看取りを経験した。家族はいつでも面会できる状況であった。重度化や終末期に関しては協力医の判断の基、家族との協定書の内容で支援するが、いつでも変更は可能であることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食を数日分用意している。	ハザードマップ上、洪水災害地域に該当していない。6年10月消防署立合いの基、職員と利用者参加の総合訓練を実施。、6年5月に自主訓練を実施している。備蓄はBCPに沿って1週間分用意している。	消防署立合いの法定の避難訓練を参考に、自主訓練の回数を増加してはどうか。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い気を付けている	身体拘束・虐待等については委員会があり、研修している。介助について、同性希望が本人から出ればできるだけ対応している。異性介助時にその都度声掛けはしていない。	異性介助になる場合には、その都度声掛けを行い、了承を得てはいいが
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食事介助や食事の際の見守りが必要なため一緒に食事をとることは行っていない。食事の準備や片づけは手伝って頂いている。	朝夕は調理済タイプを湯煎して提供し、昼食は食材を用意し職員が作っている。食器洗いや食器拭き、下膳を手伝ってもらっている。希望で(お寿司・カレー等)提供している。時期の行事食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量のチェックを行い、食事摂取量が少ない場合は本人の嗜好品などを提供し十分な栄養が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要に応じ介助を行っている。希望で訪問歯科を利用し専門的な治療を受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が無い利用者でも、日中はトイレにて排泄できる様にトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を支援している。自立の人や夜間のみおむつ・リハパン・パット使用に変更する人もいる。離床センサーを使用し夜間起きてくる人には誘導して快適な排泄支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日(月火木金)は一応決まっているが、希望があればいつでも入浴できる様になっている。	入浴日は設定されているが、声をかけており、入りたいと希望する人には対応している。入浴の準備や更衣をできる人にはお願いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の管理と服薬の確認は必ず行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を計画したり、その日の天候によりドライブに行ったりと利用者様が楽しめるようなレクを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の希望に沿い出かけられるように相談やサポートを行っている	感染症のクラスターも経験したが、7年正月明けから、家族との帰省や外出・外食に出かけてもらっている。日常的にはテラスでの体操・レクリエーションで外の風にあたっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が買物に行きたい時に、一緒に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやり取りができるように支援している。電話もその都度かけれるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実際に当ホーム内を見学して観て下さい。	庭の門扉までが共用空間と思われる。換気や掃除が行き届いたキッチンや廊下は臭いもなく清潔である。キッチンで作っている昼食の料理の香りが伝わり、食欲をそそっている。日頃の季節に応じた作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話が合うように、座る位置を変更したり、その時々様子で変えられる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住み慣れた環境に近い様に、飾る物、時計、テレビ、茶筆筒等を持って来て頂いている。	不快な臭いもなく、ホールを囲んだ窓側に各居室が配置されている。窓から外の状況が見える。テレビや日用品、自作の作品、家族の写真が飾られている。居室での食事摂取も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			